




# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○ 2020 年度農業農村工学会賞の決定	70
○ 研究部会長の交代	70
○ 2021 年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10 月 31 日	70
○ 今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！ 2020” 応募締切 7 月 31 日	71
○ 新刊「改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典」の発刊	72
○ お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	72
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	72
○ 2021 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	73
○ 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	74
○ 農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載	75
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局	75
○ 令和 2 年度東北支部総会・第 62 回東北支部研究発表会ならびに第 52 回東北支部研修会・ 第 42 回地方講習会の開催（第 1 報）  11 月 5, 6 日開催	76
○ 第 77 回京都支部研究発表会の開催（第 2 報）  発表申込締切 6 月 30 日	77
○ 第 71 回関東支部大会の開催（第 1 報）  講演申込締切 7 月 31 日	78
農業農村工学会論文集 内容紹介	79
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	80
学会記事	81

### 第 88 巻第 7 号予定

展望：九州農業の多様性と農業農村整備の取組み：鈴木浩之

小特集：九州・沖縄の多様性と農業農村整備

報文：国営筑後川下流土地改良事業の歩みと地域の発展：丸田雅博ほか

報文：鹿児島県における農業農村整備：東郷清次

報文：筑後川下流用水の管理業務の現状と課題：小栗幸樹ほか

報文：沖縄の島嶼地域における農業農村整備：瀬戸内秀規ほか

報文：佐賀農業高校と協働した人材育成：阿南光政ほか

### 技術リポート

北海道支部：農業高校の生徒による人工湿地の改善と水質浄化機能の評価：高山裕司

東北支部：底泥浚渫のための改良工法の検討およびその効果：三上康文

関東支部：軟弱地盤における効果的な不同沈下対策工法の検討：伊藤日南

京都支部：岐阜県の農業農村整備事業への取組み：今井 洋ほか

中国四国支部：広島県における農業用ため池の防災総合対策：御手洗 毅

九州沖縄支部：大蘇ダムにおける池底土質ブランケットの造成事例：西野徳康ほか

小講座：UAV（ドローン）：平 瑞樹

私のビジョン：周辺分野から見た農業農村工学：篠原慶規

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 8月25～28日	大会運営委員会	2020年度(第69回)農業農村工学会大会講演会 ※巻頭「重要なお知らせ」参照 Ⓟ	—	鹿児島市	87巻12号 88巻1,4号
2020年 10月22, 23日	中国四国支部	第75回講演会・第44回地方講習会 Ⓟ	—	高知市	88巻5号
2020年 11月5, 6日	東北支部	令和2年度総会・第62回研究発表会・第52回研修会・第42回地方講習会 Ⓟ	—	青森市	88巻6号
2020年11月 11, 12日	京都支部	第77回支部研究発表会 Ⓟ	—	福井市	88巻4,6号
2020年11月 12, 13日	九州沖縄支部	令和2年度支部大会 Ⓟ	—	長崎市	88巻4号
2020年 11月18日	関東支部	第71回支部大会 Ⓟ	—	さいたま市	88巻6号

## 2020年度農業農村工学会賞の決定

2020年度農業農村工学会賞は、2020年5月8日(金)開催の第259回理事会において、学術賞1件、研究奨励賞4件、優秀論文賞2件、優秀報文賞4件、優秀技術賞2件、優秀技術リポート賞7件、著作賞2件、歴史・文化賞1件、地域貢献賞2件、国際貢献賞2件、功労賞2件、上野賞2件、沢田賞1件が、

決定いたしました。

なお、詳細は学会ホームページおよび本誌第7号巻頭2020年度(第69回)農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

## 研究部会長の交代

2020年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

畑地整備研究部会

新部会長 石川 雅也(山形大学農学部)

前部会長 宮本 輝仁

## 2021年度農業農村工学会賞候補の推薦

2021年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、2020年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

## 2021年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績
賞の対象期間	2015年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その5か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2019年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2018年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2015年10月から2020年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人		個人または組織、団体				
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。				

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2010年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2015年10月から2020年9月までにを行った活動とする。	2018年10月から2020年9月までにを行った活動とする。	2015年10月から2020年9月までにを行った活動とする。	2015年10月から2020年9月までにを行ったものとする。	2015年10月から2020年9月までにを行ったものとする。	2018年10月から2020年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2020年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2021年度(第70回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2020年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！ 2020”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2020年7月31日(金) 17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2020年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし(どなたでも応募できます)
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品) 2万円  
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
  - ① 動画を作成する。
  - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
  - ③ タグに3つのワード(jsidre2020, こりゃ映像, (農業用水))を入れる。
  - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
  - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL)

9. 参考資料
    - ・ YouTubeにPCから動画をアップロードする方法  
<http://douga-tec.com/?p=4974>
    - ・ スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門  
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
- <参考>こりゃ映像2019 結果(テーマ:農業用水)
- 最優秀賞:津軽を潤す農業用水  
弘前大学 森田七海  
<https://www.youtube.com/watch?v=F1o4-UXFjG4&feature=share>
- 優秀賞:3匹のこぶたで学ぶ農業用水  
農研機構農村工学研究部門 新村麻実  
<https://youtu.be/ByN1E1X1szQ>
- 優秀賞:奄美群島 沖永良部島  
studio GHIKLI  
<https://www.youtube.com/watch?v=YkaRDwJdESI>

## 新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊

農業農村工学会では、創立90周年の記念事業として、「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」を2019年8月27日に出版いたしました。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,700円+税	4,500円+税

### 図書の購入方法

#### I. 個人・法人の場合（賛助会員を除く）

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または代金引換をご利用ください。

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。  
振込口座番号：00160-8-47993 加入者名：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。

③ 代金引換：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailかFAXでお送りください。別途、代引手数料と送料の実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。

#### II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書をE-mailかFAXでお送りください。

#### III. 送料

1冊200円, 2冊400円, 3冊以上600円

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

## お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2020年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
  - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
  - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①, ②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ その他（学会に一任）

詳しくは学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

## 学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であ

り、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

**1. 参加資格**

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

**2. 出題内容と出題方法**

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

**3. 解答方法**

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利

用登録が必要）

**4. 解答期限**

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌6号掲載の問題は7月末日が解答期限）

**5. 取得できるCPD単位**

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

**6. 自動登録の時期**

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

**2021年の学会誌表紙写真の募集**

学会誌企画・編集委員会では、2021年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

**趣 旨**

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

**記**

**1. テーマ**

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

**2. 対象巻号** 学会誌第89巻（2021年第1～12号）

**3. 写真などの種類**

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

**4. 枚数**

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

**5. 締切** 春季 2020年6月30日

夏季 2020年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

**6. 審査** 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

**7. 結果発表**

学会誌第89巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2021年度大会講演会会場内でパネル展示します。

**8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について**

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

**9. 著作権・出版権**

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

**10. 注意点**

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

**11. 応募方法および応募先**

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影

場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

## 「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

### 学会誌第88巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第88巻第7号 九州・沖縄の多様性と農業農村整備(仮)	公募なし
8号 「多様な主体が住み続けられる農村」の振興(仮)	終了
9号 農業用ため池の持続的な保全管理手法(仮)	終了
10号 高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術(仮)	終了
11号 農業水利施設における外来生物対策(仮)	終了
12号 農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ—(仮)	6月10日
第89巻第1号 農業農村工学におけるICT利活用の現状と将来展望(仮)	7月10日
2号 中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学(仮)	8月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 第88巻第12号テーマ「農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ—」(仮)

2019年12月中村 哲医師が、無念にもアフガニスタンで心ない凶弾に倒れました。中村医師は「百の診療所よりも1本の用水路を」との意思で、わが国の古来の灌漑技術の粋をアフガニスタン西部に惜しみなく投下しました。中村医師だけではなく、多くの学会員や関係者が海外で、特に発展途上で農業農村工学技術の社会実装をはかり、わが国だけではなく、現地での多くの業績が強く記憶に残っていると考えられます。また現在も世界中でその努力が継続されていると思います。

中村医師だけではなく、たとえば杉山龍丸氏は、自身の財産をなげうって、インドの緑化に精進し、インドでは「グリーンファーザー」として名をはせ、インドでは最も有名な日本人の

一人です。このようにわが国の農業農村工学技術はわが国だけではなく、世界にも実装され、食料生産などそれらの国の持続的な発展に大きく貢献している事例も少なくありません。

今回の小特集では、中村医師を偲びながら、農業農村工学技術に関して、世界で我々の先人がなした業績を共有しようと考えました。また、現在、世界各地で行われているさまざまな活動についても情報を共有することは、今後の学会員の活動、特に海外への技術移転、普及・定着や今後の国際協力についても有益であると考えました。学会員のさまざまな観点や地域からの情報提供など関係する多くの投稿を期待します。

### 第89巻第1号テーマ「農業農村工学におけるICT利活用の現状と将来展望」(仮)

ICT(情報通信技術)の発展に伴い、IoT(Internet of Things)、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)などに関する新たな科学技術の進展が社会の課題解決と経済成長に大きな役割を果たすことが期待されています。農業分野では担い手の減少や高齢化の進行に伴う労働力不足と平均経営耕地面積の

拡大が大きな課題とされており、農作業の省力化や農業従事者の負担軽減を目的に、ICTや人工知能(AI)などの新技術によるスマート農業の研究開発および現場への実証・普及や環境整備への取組みが注目されています。たとえば、無人飛行機(Unmanned aerial vehicle; UAV)を活用した農地・施設情報

の可視化や AI 技術を応用した画像診断による施設の機能診断、IoT を活用した水管理の自動化・効率化などの新技術開発が進められており、水管理や営農のほか、施設の保安全管理などさまざまな分野で高度化・省力化が推進されるものと考えられます。2019 年度には、農林水産省がスマート農業の本格的な現場実装を目的とした「農業新技術の現場実装推進プログラム」を公表するなど、早急な開発および普及促進が期待されて

います。

ICT に関連したテーマについては、これまでに、第 86 巻第 3, 4 号などで小特集を企画してきましたが、ICT 技術の進歩はめざましいものがあります。このため、本小特集では、再度、農業農村工学における ICT の利活用に関する取組み事例や課題、最新の技術開発や成果、さらに将来的な展望などについて、広く報文を募集いたします。

## 第 89 巻第 2 号テーマ「中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学」(仮)

山腹水路をはじめとして、中山間地域に造成された水路は、生産環境、生活環境、自然環境の面で重要な役割を果たしています。第 88 巻第 8 号で小特集を行ったテーマである「多様な主体が住み続けられる農村」としての中山間地域を目指す上では、これらの水路の保安全管理が重要です。

水路の持続的な保安全管理を通して、農林地やそれを取り巻く環境が維持されれば、中山間地域を含む流域上流部が持つ、洪水防止や水源涵養、土壌浸食防止などの生態系サービス（農林地の持つ多面的機能）の発現も期待されるため、その果たす役割は大きいといえます。

しかし、中山間地域の収益の低さ、管理の困難さや利便性の低さから、若年層などが都市部へ移住するなど、地域の人口減少や高齢化によって産業が弱体化し、それに伴って水路施設の維持・管理ができず、老朽化が深刻です。また近年の ICT 導入による精密農業への取組みについても、生産性・収益性の観点から、インフラ整備が難しい中山間地域には目を向けられず取

り残され、水路などの管理不全が課題となっています。

本小特集では、中山間地域における水路インフラの保全・管理の必要性・重要性に向けた議論を活性化する上で参考となる報文を広く会員の皆様から募集します。特に農業農村工学分野に関係の深い、

- ① 収益性の低い中山間地域の生産・生活用インフラの一つである水路を保全する理由は何か？
- ② 山腹水路の持つ今まで気が付かなかった価値は何か？
- ③ 生産・生活用インフラとしての水路保全という視点から離れ、農業遺産のような伝統的・歴史的価値に視点を移して保全・管理の資源を使った方が良いのか？

などを考えるため、現在行っている水路保全のための特色ある枠組み・取組み・仕組み、農業遺産に認定された水路と町おこし、生態系サービスの視点から見る水路保全・活用、などの報告を期待します。

### 農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載

農業農村工学会論文集は、現在コレスポンディングオーサーを記載するシステムになっております。投稿される皆様に改めてご案内申し上げます。農業農村工学会論文集投稿の手引き（平成 27 年 3 月 16 日改正：第 236 回理事会報告）の「6.2 投稿手順」に「@追加投稿情報（会員番号、コレスポンディングオーサー等）の入力」の記載があります。

また、投稿システムの著者マニュアル（Ver.15.0～、2018 年 7 月改訂）に「3-6 追加登録情報を入力する」がありますのでご

確認ください。さらに、論文集の完全版下原稿（邦文）の作成例 Ver.5 などにも記載例が示されていますので、併せてご確認ください（学会ホームページ [http://www.jsidre.or.jp/how\\_to\\_post/](http://www.jsidre.or.jp/how_to_post/) からダウンロードできます）。

なお、掲載済みの論文に遡って、コレスポンディングオーサーの証明を必要とされる方は、農業農村工学会論文集企画・編集委員会（E-mail: ronbun@jsidre.or.jp）まで、ご連絡ください。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017 年のインパクトファクター（IF）は過去

最高の 1.379 となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）

- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また, 世界 11 カ国から Editor (19 名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方, 2018 年 7 月から, 新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)  
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Associate Editors-in-Chief  
Dr. Seong-Joon Kim  
Konkuk University, Korea  
Dr. Chen-Wuing Liu  
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ Editors 11 カ国から 19 名
- ・ Editorial Advisors 29 名
- ・ Chief Managing Editor  
Dr. Kimihito NAKAMURA  
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ Managing Editors  
Dr. Eunmi Hong  
Kangwon National University, Korea  
Dr. Inhong SONG  
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

#### Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Rep. of China

#### Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Rep. of China

#### Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International  
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),  
Japan

#### Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata  
University, Japan

#### 編集事務局 (2018 年 7 月から 2020 年 6 月まで)

##### ・ Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan  
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502,  
JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000 円+税

学生会員 (院生含む) 4,500 円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は, まず農業農村工学会にご入会の上, お申し込みください。

なお, オンラインジャーナルへの完全移行に伴い, 2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上, お申し込みください。

### 令和 2 年度東北支部総会・第 62 回東北支部研究発表会ならびに 第 52 回東北支部研修会・第 42 回地方講習会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和 2 年 11 月 5 日 (木), 6 日 (金)
2. 会 場  
(1) 11 月 5 日 (木)  
ラ・プラス青い森  
〒030-0822 青森市中央 1-11-18 TEL : 017-734-4371
- (2) 11 月 6 日 (金)

ウェディングプラザアラスカ

〒030-0801 青森市新町 1-11-22 TEL 017-723-2233

#### 3. プログラム概要 (案)

[第 1 日目] 11 月 5 日 (木)

- (1) 支部総会・研究発表会
- (2) 情報交換会



[第2日目] 11月6日(金)

(3) 支部研修会・地方講習会

4. 問合せ先

〒036-8561 青森県弘前市大字文京町3

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 丸居 篤まで

E-mail: marui@hirosaki-u.ac.jp

5. その他

詳細は本誌第7号に掲載予定です。

第77回京都支部研究発表会の開催(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

(1) 日時 2020年11月11日(水) 10:00~17:00

(2) 会場

◎受付・開会式、表彰式・基調講演

福井県民ホール

〒910-0850 福井県福井市手寄1-4-1 アオッサ8階

サ8階

TEL: 0776-87-0003 FAX: 0776-87-0303

◎研究発表会

福井市地域交流プラザ

〒910-0850 福井県福井市手寄1-4-1 アオッサ5, 6階

サ5, 6階

TEL: 0776-20-1535 FAX: 0776-20-1536

(3) 会場までのアクセス

◎JR北陸本線「福井駅」下車 徒歩1分

◎えちぜん鉄道「福井駅」下車 徒歩1分

◎福井鉄道「福井駅」下車 徒歩1分

2. 情報交換会

(1) 日時 2020年11月11日(水) 18:00~20:00

(2) 会場 ウェルアオッサ

〒910-0850 福井県福井市手寄1-4-1 アオッサ3階

3. 現地研修会

(1) 日時 2020年11月12日(木)

(2) 内容 現地研修会のコース等、内容は決まり次第、農業

農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ

(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)にてお知らせいた

します。

4. 研究発表申込み

2020年6月末日までに、発表希望者は投稿原稿に先立ち、以下の情報を簡条書きにした電子メールを神戸大学・多田にご送信ください。①表題(仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門(水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。なお、件名を「発表申込み」としてください。

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学大学院農学研究科 多田明夫

E-mail: atada@kobe-u.ac.jp

TEL&FAX: 078-803-5897

5. 投稿原稿申込み

(1) 原稿投稿先および期限

2020年7月末日までに、研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した原稿(PDFもしくはMS Word)と投稿票(MS Excel)を、電子メールで神戸大学・多田までご送信ください。投稿票は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)の「第77回京都支部研究発表会の開催について」よりダウンロードしてください。

※投稿原稿申込みは電子投稿のみで結構です。発表申込み・投稿申込み後に、事務局より受信確認メールを返信いたします。

(2) 投稿要領

・発表者は学会員に限りません。ただし、連名者に少なくとも1名は学会員が含まれること。なお、農業農村工学会京都支部では、研究発表会における発表と講演要旨を審査し、優れた研究発表に京都支部賞を授与していますが、同賞の受賞者は研究発表会の時点で京都支部に所属する学会員である方に限ります。

・投稿要領および原稿の書式については、京都支部ホームページ内の「発表申込票(投稿票)と投稿要領」(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)を参照してください。

・原稿の枚数は図面を含めて2枚とします。

・発表時間は12分(質疑応答は3分)です。

・原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出してください。

・発表の補助道具としてパソコン(OSはWindows10、ソフトはPowerPoint)を準備します。

・データはCD-R、USBメモリーでご用意ください。

6. 参加申込み

参加申込みの方法、宿泊斡旋等については、本誌第7号に掲載するとともに、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)にてお知らせする予定です。

7. 備考

本会告には、2020年4月末時点における京都支部研究発表会の開催予定を掲載しておりますが、新型コロナウイルス対策の都合により、予定が大きく変更される場合は、農業農村工学会ホームページなどで改めてお知らせいたします。

## 8. 開催地事務局

福井県農林水産部農村振興課内

第77回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 木下慎也

TEL: 0776-20-0452 FAX: 0776-20-0656

E-mail: s-kinoshita-g3@pref.fukui.lg.jp

## 第71回関東支部大会の開催 (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



## 1. 日時

支部大会講演会, 講習会, 情報交換会

2020年11月18日(水) 時間未定

申込締切日: 2020年7月31日(金)

原稿締切日: 2020年8月31日(月)

## 2. 場所

支部大会講演会, 講習会, 情報交換会

ソニックシティ

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

(JR「大宮駅」西口より徒歩3分)

TEL: 048-647-4111

## 4. 問合せ先 (開催地事務局)

埼玉県農林部農村整備課企画担当 辻村, 関口

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

TEL: 048-830-4345 FAX: 048-830-4840

## 3. 参加申込み (予定)

(1) 講演会, 情報交換会

参加申込締切日: 2020年8月31日(月)

(2) 講演申込み

## 5. その他

詳細は本誌, 埼玉県農林部農村整備課ホームページに掲載予定です。

また, 新型コロナウイルスの影響により, 開催形態を変更する場合があります。

変更は決定次第, 学会誌・メールマガジン・学会Webサイト等で案内いたします。

## 資格試験のための 農業農村工学必携 第二版

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書の初版は「改訂七版 農業農村工学ハンドブック (平成22年発行)」をコンパクトに再編集し, 平成24年6月に発行いたしました。

資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして, また, 農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。

第二版は, 初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し, 「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。

是非ともご購入の上, お役立てください。

## 主要目次

## [テキスト]

本編

第1部 農業農村工学概説

第2部 農業農村の整備計画

第3部 設計・施工

第4部 管理

第5部 事業の施行

基礎編

第1部 数学・情報

第2部 土

第3部 水

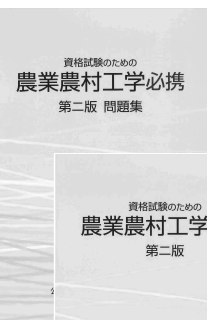
第4部 基盤

第5部 農業・環境

第6部 社会

索引

[問題集]



体裁: B5判 約520ページ

定価: 本体2,570円+税

送料: 1セットにつき200円

発行: 公益社団法人 農業農村工学会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494 E-mail: suido@jsidre.or.jp

学会ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp/>